

令和2年度札幌市営企業調査審議会

第3回下水道部会

会 議 録

日 時：2020年12月15日（火）午前10時開会
場 所：札幌市下水道河川局庁舎 1階 大会議室
(Web会議による開催)

出席者 委 員 11名

Web：朝倉委員、佐藤委員（部会長代理）、白崎委員
高橋委員、平本委員（部会長）、松浦委員、松山委員
吉田委員

下水道河川局庁舎：河原委員、名本委員、水澤委員

市 側

西田下水道河川局長、中澤経営管理部長、善徳事業推進部長
伊藤河川担当部長、小野管路担当部長、土橋処理担当部長
藍原経営企画課長

1. 開 会

○事務局（藍原経営企画課長） お時間になりましたので、ただ今より令和2年度札幌市営企業調査審議会第3回下水道部会を開催いたします。

本日は、お忙しい中をご出席いただき、ありがとうございます。

本日の司会を務めます下水道河川局経営企画課長の藍原と申します。

今回は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、ウェブ会議という形で開催させていただきます。通常と異なる形ですが、皆様におかれましては会議の円滑な進行にご協力くださいますようお願いいたします。

本日の議題であります（仮称）札幌市下水道事業中期経営プラン2025（素案）と説明資料につきましては、事前に皆様へ送付させていただいております。そのため、今回は事務局からの資料説明を割愛し、皆様からのご質問、ご意見を中心にご審議いただきたいと思います。

なお、お時間については11時頃までをめどとさせていただきます。また、下水道河川局庁舎内の皆様におかれましてはマスクを着用したままご発言いただくことにご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

2. 下水道河川局長挨拶

○事務局（藍原経営企画課長） それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、下水道河川局長の西田よりご挨拶を申し上げます。

○西田下水道河川局長 おはようございます。札幌市下水道河川局長の西田です。

札幌市営企業調査審議会下水道部会の開会に当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

本日は、先ほど司会からも話がありましており、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえましてウェブ会議として開催させていただいております。事務局でも不慣れな部分があるかと思っておりますけれども、会議の円滑な進行に努めてまいりますので、皆様、ご協力の程よろしくお願いいたします。

さて、前回の審議会では、（仮称）札幌市下水道事業中期経営プラン2025の骨子案についてご審議いただき、皆様から多くの貴重なご意見を頂戴いたしました。本日は、そのご意見を踏まえまして作成しました（仮称）札幌市下水道事業中期経営プラン2025（素案）についてご審議いただきたいと思います。

今回ご審議いただく素案は、各指標の目標値などを定めたものです。限られた時間の中ではございますけれども、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただければと思います。ご審議の程、よろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますけれども、開会に当たりましての私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎連絡事項

○事務局（藍原経営企画課長） それでは本日の議題でございますが、（仮称）札幌市下水道事業中期経営プラン2025（素案）についてでございます。

審議の流れでございますが、先ほどもご説明いたしましたとおり、事務局からの資料説明は割愛いたしまして、初めに、第1章、第2章の内容についてご質問、ご意見をいただき、その後、第3章、第4章の内容についてご質問、ご意見をいただく流れでご審議をいただきたいと思います。

なお、ご質問の際は挙手をお願いしたいのですが、その際は、画面の中に手が見えるように挙手いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、以降の進行につきましては平本部長にお申したいと思います。

平本部長、どうぞよろしくお申しいたします。

3. 議 事

○平本部長 皆様、おはようございます。

今回はウェブ会議で下水道部会を開くこととなりました。不慣れな部分もあるかと思いますが、1時間ぐらいの会議を予定しておりますので、ぜひ活発なご議論をいただきたいと思います。

それでは、早速、議事に入ります。

まず、第1章と第2章についてご質問やご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお申しいたします。

○水澤委員 今回、いただいた資料を見た感想ですが、前回の9月17日の資料とどこが違うのかが分かりませんでした。また、数値を含めて、ほとんど変わっていないように思いました。さらに、前回出された意見の反映もなかったように感じています。

そこで質問ですが、この度の中期経営プラン2025は、新型コロナウイルスの影響を加味した計画にするのか、それとも、新型コロナウイルスの影響を加味しない計画にするのか、どちらにしようとしているのでしょうか。

私は、新型コロナウイルスの影響を加味した計画にすべきと考えています。ですから、現在のプランの見直しが必要ではないかと思っておりますが、そういうお考えはあるのでしょうか。

○平本部長 今、流行中の新型コロナウイルス感染症を計画に盛り込むのかで計画が大きく変わるということはそのとおりだと思うのですけれども、ざっと資料を拝見している限り、想定していないものになっているかと思えます。

また、新型コロナウイルス感染症が下水道事業にどれくらい深刻な影響を与えるかはあまりよく分からないところがあります。そのようなことがあるかと思っておりますが、事務局からコメントがあればいただきたいと思います。

○事務局（中澤経営管理部長） ただ今のご質問に対して私からお答えをさせていただきます。

まず、新型コロナウイルスの影響をプランに見込むのかということですが、結論から申しますと、見込んでいくつもりでございます。ただ、現在お配りしております資料にはその数字は反映されておられませんので、それについて今から数字等を含めてご説明いたします。

一番大きな影響を受けるのが使用料収入です。今年の上半期の状況をご説明させていただきますと、家事用と業務用の使用料の傾向では若干違うのですが、家事用については、お配りしている資料の中にはどこにも記載がございませんので申し訳ありませんが、上半期で申しますと、前年度の決算よりも5%ほど増えております。この要因は、件数が増えていること、また、コロナの影響で在宅の時間が多くなっているという影響が多分にあるのかなと思っております。

一方で、業務用については前年度と比べて22%ほど落ちております。これは、ご承知のように、経済活動にかなり大きな影響があることの結果だと思っております。合わせますと、上半期では、金額にすると前年度決算よりも約8億円、率で申し上げますと7.3%の減収になっております。

なお、こちらについては感染の状況と経済活動をどうするかによって大きく影響を受けてくるかと思っておりますので、現在、来年度の予算を私どもでは編成しているところですが、ぎりぎりまで感染の状況を見極めた上で最終的にどれくらいの影響を見込んでいくかということで対応していきたいと思っております。最終的には、来年度予算への影響などが分かりました段階で、再来年度以降もどう見込むのかということも含めて、このプランの中で今後5年間の収支見通しに反映させていきたいと思っております。

○平本部長 新型コロナウイルスの影響を加味するという、上半期で8億円の減収があったということでした。

○水澤委員 要望です。

今回の資料の中で、今年の4月から11月までの収入実績と計画の差があれば非常に分かりやすかったのではないかと思います。そういう資料が提供されておられませんので、次回以降は分かる資料を提供してほしいと思います。

次の質問に移ってもよろしいでしょうか。

○平本部長 時間が限られておりますので、他の委員からご質問やご意見がありましたら、先にご発言をいただいた後、水澤委員にお戻ししたいと思います。

順番にご発言していただきたいと思っております。

それでは、他の委員の方からはいかがでしょうか。

○名本委員 細かい話で申し訳ないのですが、何点かございます。

まず、1ページ目の下の図です。

国の施策として、新下水道ビジョンと新下水道ビジョン加速戦略とあります。この言葉

がよく分からなかったので、注釈なり用語説明に付記されたら良いと思います。

2点目は、3ページ目です。

1行目に「施策ごとに合計13の目標を設定し」という言葉がありますけれども、これはどこのことなのかと悩んだのですが、下の表を数えていくと13項目ありまして、これなのかなと分かりました。そうであれば、言葉として、「施策ごとに合計13の目標を設定し」というよりも、「主要施策について13の目標値を設定し」とした方が良いのではないかと思います。

3点目は、5ページの資本的収支実績の中のことについてです。これは前にも聞いたかもしれませんが、企業債が計画値より30億円も増加し、これが残高に大きく影響しているのではないかと思いますけれども、増加した理由を教えていただけないかと思います。

それから、企業債未償還残高は2020年度段階で2,422億円残っておりまして、推移を見ましたらほとんど変わっておらず、償還がいつ頃までにできるのか、市民としては不安です。

4点目は、第2章の11ページについてです。

中ほどに「協働による雨水流出抑制の促進」という言葉があり、文章として、「市民、企業、行政それぞれの取組による雨水流出抑制を促進します」とありますが、「それぞれの取組」とあえて入れた意味合いといいますか、「それぞれが協働し」ということの方がタイトルに合うのかな、整合性を図った方が良いのではないかと考えています。

○平本部会長 1ページの語句の説明、3ページの文章表現、5ページの企業債の残高の推移、11ページの協働による雨水流出抑制についてのご指摘でした。

事務局から簡単にご回答をいただけますでしょうか。

○事務局（中澤経営管理部長） まず、先ほどの水澤委員のご質問について1点補足いたします。

コロナの影響を加味した最終的な収支につきましては、4月以降にパブリックコメントに出す前に委員の皆様には改めてお知らせしたいと思っています。

それでは、今の名本委員のご質問へのお答えについてです。

1点目の国の施策の注釈については検討させていただきます。

2点目の13の目標、主要施策についての方が良いのではないかとということですが、こちらの書きぶりについても検討させていただきます。

3点目の5ページの企業債がなぜ30億円も増えているのかについてです。2020年度の数値について、計画値と予算値を比べて30億円増えているということですが、私どもでは予算の専門的な制度がありまして、2020年度の予算値176億円の中には、5ページの一番下の米印のところに書いてあるのですけれども、2020年度の予算値は当初予算に2019年度から繰り越した事業費を加えていますとあります。

このように、前年度の事業の一部を2020年度に繰り越したという事業があり、その財源としての企業債があるものですから、計画値と比べて多くなっているということです。

もう1つは、企業債未償還残高についてです。変わっていないというお話がございましたけれども、現状としましては、今行っている建設事業に充てるために新たな企業債を発行する分と、企業債の償還が進んだことによって毎年の返済額が減ってくる分があります。これを相殺すると同じような額になっているということで企業債残高の推移が変わっていないということになります。今後、施設設備等の老朽化により建設事業費が増えていく見通しを立てておりますので、今後はこちらの残高が増えていく見込みになるだろうと考えております。

最後に、11ページのそれぞれの取組という言葉についてのご指摘です。ここでは、協働についてのご説明をさせていただいていまして、何かに取り組んでいただくという意味合いもありますので、文言としてはそれぞれの取組によると書かせていただきましたが、より分かりやすい表現がないかどうかは、再度検討したいと思います。

○平本部長 他にございませんでしょうか。

○松浦委員 私からは、5点ほど意見を含めて質問させていただきます。

1点目は、10ページの処理施設の再構築計画の策定の年次計画についてです。

2021年度に策定した後、ずっと実施に向けた検討という言葉が続いております。中段の記述でも再構築計画を策定しますとだけあり、その後の取組が明確ではないなと思っています。この5年間の計画で実施に着手するのしないのか、教えていただきたいです。また、着手するのであれば、その旨を明記すべきではないかと思えます。

2点目は、13ページになりますけれども、ステップ流入式硝化脱窒法の導入と雨天時下水活性汚泥法の導入についてです。前回の骨子案のときは絵があったと思うのです。非常に専門的な用語と内容になりますので、絵を入れていただくと分かりやすくなるのかなと思えます。

3点目は、ステップ流入式硝化脱窒法についての年次計画についてです。導入の前後で目標放流水質達成率が100%になっております。ページを遡るのですけれども、4ページの実施状況を見ますと、現状でも100%を達成しているのですね。そうしますと、この導入の効果があるのかないのか、その辺を教えていただきたいと思えます。

4点目は、14ページの下水熱利用の促進の年次計画との関係についてです。市有施設への導入検討という表現が5年間続いているわけですけれども、ページの中段には導入を進める、利用を促進するという記述になっていまして、整合しないと考えます。

具体的な事業計画を示すというのが今回のプランですので、導入検討ではなく、導入促進とすべきではないかと思えます。また、その場合、計画事業費が20億円になっているわけですけれども、下水熱利用の整備費は20億円の中に入っているのかどうか、教えていただければと思えます。

5点目は、ページが遡って恐縮ですが、個別の内容というよりも、1ページの2の位置づけ、計画期間のエです。前回、名本委員が意見を出され、修正されたということのようですけれども、調べてみますと、下水道マスタープランというのは、上位計画であるまち

づくり戦略ビジョンの前身となります第4次長期総合計画を踏まえて策定されたということでした。そうしますと、まちづくりビジョンから整合と記された矢印が下に伸びているのは時系列として不適當ではないかと考えます。

既に策定されております下水道ビジョン2030で同じ図を使われているので、変えられないということなのかもしれませんが、計画同士の関係性を示すのであれば、よく使われる計画の上位と下位を示すピラミッド形の絵にするとか、それが無理であれば、せめて整合の矢印は無くさないで、まちづくり戦略ビジョンを受けて下水道マスタープランができたというふうに誤解されかねませんので、工夫をしていただけたらと思います。

○平本部長 最後のご指摘は僕もおっしゃるとおりだと思って伺っていました。

残りの4点について事務局からご回答をお願いいたします。

○事務局（善徳事業推進部長） 私から質問についてお答えをさせていただきます。

まず、再構築計画を策定した後、実際にそれに取りかかる期間がこの5年間であるのかどうかです。計画は来年度に予定どおり策定いたしますけれども、基本的にどここの処理場について統合する、ずらすというような基本的なことをまとめまして、それを実現するため、実際にどういうルートでどれぐらいのお金をかけてという細かいことを調べて実際に行うことに結びつけなければなりません。しかし、それには土地の状況や管の状況をさらに調べなければならず、期間はかなりかかると見込んでおりますので、少なくとも、この5年間でそれに取りかかることはございませんので、ご理解をいただければと思います。

次に、13ページのステップ流入式硝化脱窒法のところです。

絵については検討させていただきたいと思います。

それから、既に目標数値を達成しているのに必要なかといいますか、その効果はどうかということですが、予定しております茨戸水再生プラザについて、放流水が茨戸川の湖のようにたまっている、やや閉鎖的な所に流れていく状況にあります。あまり流れが良くない所ですので、水質は今も良いのですが、より確実に良い水質をキープする、あるいは、さらに良くするという事で、閉鎖的な所の水質の改善に役立たせるためにステップ流入式を導入することにしております。

それから、14ページの市有施設への導入についてです。

下水熱というのはコスト的なものがかかります。市有施設に対し、こういったものを導入できないかという働きかけは既に進めておりますけれども、ほかのエネルギー源と比べた場合、コストがどうなのかを検討していかなければならないので、5年間でできればいいのですが、進められるように努力するという段階かなと考えております。そのため、この中で導入をしっかりとするというところまで書ける状況にないことをご理解いただきたいと思います。

なお、20億円には、西部スラッジセンターの発電施設の事業費を載せているところがございますので、下水熱の利用についての経費は、この中では触れてございません。

○事務局（中澤経営管理部長） 5つ目のご指摘について、ピラミッド型という具体的なご提案もいただき、ありがとうございました。改めて、どういう形が適切であるかは検討させていただきたいと思います。

○平本部長 他にございませんか。

○水澤委員 1ページの1の目的のところの中段の「しかし」以降です。

前回の部会で適正な受益者負担については人口減少を理由としないということだったと記憶しているのですが、ここでは将来的な人口減少に伴う下水道使用料の減収という言葉がありますので、これは取ったほうが良いのではないのでしょうか。

2点目ですが、7ページの4の中期経営プラン2025の要点の中の(3)の一層厳しくなる経営環境への対応の中にコロナの話を入れてはどうかと思います。新型コロナウイルスの影響による減収を乗り切る経営の実現というような表現での項目を入れてはどうかということです。

3つ目は、9ページから12ページにある5年間の取組の中の年次計画です。年度ごとに距離数を書いておりますが、具体的に札幌市のどの区のどの地域をやるのかという面的なものがあれば具体的なイメージが湧くと思いますので、そういう表現ができないかどうか、ご検討をいただきたいと思います。

最後に、21ページのコラムの札幌市の下水道使用料についてです。ここでは政令指定都市間での比較をしていますが、正直に言いますと、これではピンと来ない気がいたします。北海道内の市、例えば、旭川市や苫小牧市などとの比較ができないのでしょうか。

○平本部長 今、1ページの文言について、7ページの4の(3)にコロナの影響を入れられないか、9ページ以降の年次計画について具体的に書けるものはないか、21ページの料金比較についてということです。

お答えをいただければと思います。

○事務局（中澤経営管理部長） 私からは、1点目、2点目、4点目についてご説明いたします。

まず、1点目の1ページの「しかし」の部分の書きぶりについてです。財政状況の悪化については収入面と費用面の両方の影響があって、前回の部会でもご指摘ありましたとおり、その内の費用面の影響が大きいのではないかというご指摘がございましたので、ここでは費用面の老朽化、自然災害を先に出し、その後に収入面の使用料の減少を添えているところでは。

次に、2点目の7ページの(3)においてコロナについての言及をとということです。

こちらは、あくまで要点ということで、全体的、総括的な事柄を記載しておりますので、コロナというやや具体的なことを入れるのがふさわしいかどうか、改めて検討させていただきます。

最後に、21ページのコラムにおいて、政令市ではなく、道内市で比較できないかということについてです。ビジョンの中では道内の近隣都市との比較を出させていただきます。

たが、どうしても道内のどこの都市を拾うかということが出てきますし、むしろ、政令市全体のほうが括りとしては1つのグループとしてふさわしいのではないかと考え、記載しましたけれども、改めて検討させていただきたいと思います。

○事務局（善徳事業推進部長） 3点目について、具体的な場所を書けないかということについてです。以前にもご説明したとおり、距離は書いているものの、実際には詳細に調査して、必要な箇所をやるということになりますので、細かいところまではこの計画の段階では難しいと考えております。

○平本部長 中期経営プランの中では具体的な場所までは書かないけれども、年次計画の中では場所を決めなければ工事ができないわけで、そういったことが行われるということかと思えます。ありがとうございました。

それでは、第3章、第4章に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○平本部長 引き続きまして、第3章と第4章に関してご質問やご意見をいただければと思います。

○名本委員 1点だけお願いします。

28ページについてです。

累積資金高の見直しについてですが、これを見ますと、2026年度に累積資金が確保できなくなり、後期の下水道事業に支障をきたすことが考えられるのですが、それを防ぐために、例えば、下水道料金の値上げみたいな話が出てくると思うのです。しかし、値上げには市民の十分なコンセンサスを得る必要があり、そのためには多くの時間を要することから、このプラン2025の計画の中でその辺の議論をある程度しておいたほうが良いと思うのです。

ここで書くとすれば、新型コロナウイルス感染症の問題もありますので、プラン2025の計画期間中に財政計画等の見直しを行うと明記したほうが良いのではないかという感じがしています。

○平本部長 重要なお指摘だったかと思えます。中期経営プランの中で財政計画の見直しをうたうかどうかは鍵になるかと思えますが、お考えはありますでしょうか。

○事務局（中澤経営管理部長） まず、累積資金が2026年になくなるのではないか、そこでプラン2025の期間内に料金改定等を含めた議論をすべきではないかというご指摘でした。

私どももそのように考えておまして、素案の20ページになりますけれども、5年間の主な取組のうちの2つ目に適正な受益者負担の具体的な検討とあります。まさにこちらに書いてありますが、ビジョン2030の計画期間の後半、すなわち2026年度以降に資金が不足する可能性に備え、2025の期間中に具体的な受益者負担の在り方についての検討をしたいと考えております。

コンセンサスを得るのに時間がかかるのではないかというのはごもっともでして、この

先の累積資金の状況を見ながら適切な時期に検討を始めたいと考えております。

○名本委員 基本的にはそうだと思うのですが、28ページの書き方です。受益者負担の検討を行い、推計する予定だと書いてしまうと、予定なのかとなるのです。推計するという言い方で良いのかは分かりませんが、もう少し明確に書かれた方が良いのではないかということだけです。

○平本部長 書きぶりの問題ですね。これはご検討いただくということによろしいでしょうか。

○事務局（中澤経営管理部長） 検討させていただきます。

○平本部長 それでは、他にございませんか。

○水澤委員 今の20ページのところについてですが、今回のプラン2025の中で受益者負担の適正化を検討するという話は無理があるのではないのでしょうか。それは、新型コロナウイルスの影響がどこまで及ぶのかが分からない状況で、その中で料金改定の話をするとなりますと、非常に不確定な要素の中での議論になりますから、なじまないのかなという気がしております。

次に、質問です。

27ページに人口の見通しとあります。ある意味、人口減少を1つのキーにして料金改定が必要だという話になっているのですが、人口とリンクさせるのが良いのか、世帯が良いのか、読んでいて分かりませんでしたので、お考えを教えてください。

それから、27ページの建設事業費の見直し、維持管理費の見直しについてです。2016年度から2020年度は決算値から計画値に変えたようですが、なぜそうしたのがよく分かりませんでした。決算値のほうが現実的な値なので、決算値を使った方が良いのではないのでしょうか。

最後に、全体の話になるのですが、先ほども出ていましたとおり、2020年度の決算か、次年度の計画でしょうか、令和3年度の予算が4月以降に出てくる、そして、パブリックコメントが4月から5月に予定されているということでしたよね。でも、パブコメが先ではなく、プランが先ではないのでしょうか。果たして4月や5月に中期経営プランがまとまるとはどうも思えないので、パブコメが先ではなく、プランが先だと考えますので、パブコメの日程を再度考え直してほしいと思います。

○平本部長 私が聞き取れないことが幾つかあったのですが、ご回答をお願いします。

○事務局（中澤経営管理部長） 3点のご質問がありました。

まず、1点目の人口減少をキーとしているけれども、人口ではなく、世帯で考えた方が良いのではないかというご指摘です。

確かに、1世帯当たりを構成する人数はだんだん少なくなっている傾向がありますこと、また、下水道は、人単位ではなく、世帯単位で契約することを考えますと、そういうご指摘については理解ができます。私どもでも、そういうことも含め、予算の編成なりをしていくわけですが、札幌市として人口推計はありますけれども、世帯数の将来推計を

持っていないということがあります。そのため、世帯数の動向には注意しながらも、計画に記載するのは人口の見通しとさせていただきます。

2点目は、建設事業費の見通しと維持管理費の見通しの棒グラフについて、前回は水色のものが決算値だったところ、今回、決算値に変えたのはなぜかです。

前回、棒グラフとその上の説明文がありますが、その関係に分かりづらい部分があったため、今回、その辺を見直しました。また、ここで示したいのは、前回のプラン2020で計画した事業量のボリュームと今回のプランの事業量のボリュームでどのくらい増加したのかを示すことが分かりやすくなるのではないかと思いますので、両方とも計画値に置き換えたということです。

3点目の今後のプラン策定のスケジュールに関わることについてです。

私が先ほどパブコメは4月か5月と申しましたのは、あくまでも予定でして、決定しているものではありません。それに、冒頭でお話もありましたコロナの影響を見通した収支計画がどうなるのかを今日の時点で委員の皆様にお示しできておりませんので、まず、今後、それをお示ししたうえで、どういう進め方がふさわしいか、部会長ともご相談させていただきながら決めていきたいと考えております。

○平本部長 それでは、他にございませんか。

○河原委員 10ページの処理施設の再構築計画というところです。

将来の人口の減少を見据えた統廃合などがありますけれども、これは漠然的に考えていることなのか、具体的な考えは多少なりともあるのでしょうか。

そして、5年間の取組に入れているということは、5年間のうちに見直していくということなのか、それとも、長期的になるという予測をしているということなのでしょうか。

○平本部長 先ほどのご質問とも一部重複すると思いますけれども、ご回答をいただければと思います。

○事務局（善徳事業推進部長） 再構築計画についてですが、水再生プラザというのは90年や100年使う施設であります。さらに、改築にも相当な期間を要しますので、今10か所あるのですが、全てをやるとなると100年くらいかかってしまいます。ですから、将来的なことを見越していろいろと検討しながら計画づくりを進めているところです。

すぐできるわけではありませんので、ご理解をいただければと思います。

○平本部長 他にございませんか。

○松浦委員 先ほどから、新型コロナウイルスの影響の話が議論されているのですが、その影響を含めた収支計画が出た時点でこの部会の委員に周知していただき、そのうえでパブコメに進むということでした。その一方、冒頭に上半期で7億円くらい利用料収入が減っているというお話があったかと思います。

つまり、新型コロナウイルスの影響というのは、資金の計画には影響してくるとしても、組み立てているプラン全体に影響を及ぼすものではないと認識しているということで良いかどうか、この時点で確認させていただきたいと思います。

○平本部長 大事なことだと思いますので、ご回答をお願いいたします。

○事務局（中澤経営管理部長） 今、松浦委員からご指摘があったとおりでして、事業を進めていくということでは、特段、コロナの流行によって大きく影響を受けている部分はあまりありませんので、収入面での影響をプランに反映させていくことになるかと思いません。

○平本部長 そのうえでですけれども、松浦委員、何かご質問やご意見があるのかと思うのですが、いかがですか。

○松浦委員 収支に影響があるのであれば、事業を進めていくうえでも影響が出てくるのではないかと危惧しているのですが、いかがでしょうか。

○事務局（中澤経営管理部長） 26 ページの一番上の今後の財政運営についてという考え方の中の一番下の2行程になりますけれども、投資と負担のバランスに配慮しながら資金が不足することのないよう、健全な財政運営に努めますという考えをお示ししております。あくまで、財源の範囲に見合った事業計画を立て、この5年間では資金が不足することのないような事業経営をしたいということです。

○平本部長 上半期で8億円、7.3%ほどの減収だというご報告を冒頭にいただきましたが、収益的収入が五百数十億円あるような状況においての1年間で15.6億円の減収ということです。もちろん、減収は大きいのですが、中期経営プラン2025に大きく関わるような数字ではないと事務局では理解されているということよろしいのでしょうか。

○事務局（中澤経営管理部長） 確かに減収幅がどれくらいになるかは今後の感染の推移によりますし、見込みとのずれは生じてくるかと思いますが、それは、毎年、プランの進捗管理をしていく中で考えていかなければならないと思っております。それを本書の中でも進捗管理とうたっておりますけれども、毎年、確認をしながら進めていきたいと考えております。

○平本部長 他にございませんか。

○朝倉委員 下水道の使用料はどちらで決めるのでしょうか。現在、1,270円となっているのですが、これを変動させる考えはないのでしょうか。

それから、2030年というのは、維持費と建設費は費用ですけれども、ある程度、固定なのではないでしょうか。変動が発生する場合がありますでしょうか。建設については、耐震のことが残っているということがあるのですけれども、なだらかな線になっていて、固定的な計画になっていくようなものでなければならぬと思ったのですけれども、あるべき姿は2025年に達成できないものを検討し、2026年度から次期中期経営プランを、ということなのか、建設関係も含め、計画に入れられているのかどうか、お聞きしたいと思います。

○平本部長 これまでのご質問とも一部関わるご質問かと思いますが、ご回答をお願いいたします。

○事務局（中澤経営管理部長） まず、1点目の使用料です。

使用料は札幌市の条例で定めておりますので、料金改定を行う際は、最終的には条例を改正することになりますので、手続としては、議会に議案をお諮りし、ご承認をいただくこととなります。それまでの間には、当然、札幌市から審議会に料金改定について諮問をしまして、それについて審議会から答申をいただくということになります。

2点目の建設事業費についてです。

私どもでは、平成27年に改築基本方針を既に定めておりまして、その中で、施設をできるだけ長寿命化し、長く使い、本当に必要なものについて計画的な改築を行っていくという方針を立てて進めております。基本的には、この計画に従って進めていくことになるかと思っております。

○平本部長 まだ若干のお時間がありますので、他にご発言がある方がいらっしゃいましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○高橋委員 24ページの学生向けの出前授業や来館者数などについて、コロナの影響はないのかなと思っております。お伺いしたいと思います。

○事務局（中澤経営管理部長） 下水道科学館の運営に当たって、入場者数などについてはコロナの影響が出ております。

できるだけ3密を回避するということがあります。そこで、学校の出前授業で申しますと、普通の教室でやっていた形が、学校側から体育館のような広いところでやってくださいというようなお話がありまして、件数が前年度より少なくなっております。

それから、科学館の入館者数についてです。昨年度は4万9,000人程でしたが、今年度は、11月末までの実績ですが、1万900人くらいで、入場者数は大きく落ち込んでおります。

○高橋委員 松浦委員が言っていたコロナの影響がこうした事業に影響しているのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

○平本部長 影響しているに違いないと思うのですが、いかがでしょうか。

○事務局（中澤経営管理部長） ご指摘のとおり、こういったところにも影響は出ています。そして、広報事業ということで申しますと、今年度はあまり積極的といえますか、幅広い活動ができなかったのは確かです。ご指摘はそのとおりだと受け止めております。

○平本部長 他にございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○平本部長 大体予定の時間ですが、この際ですから、全体を通じてお気づきの点やコメントがあればお願いいたします。

○吉田委員 プランに直接関わることではないのですが、コロナの関係です。

今、コロナで影響がある家庭などに対し、使用料の支払い猶予などについて、11月くらいからやられていると思います。基本的には、上下水道の一括支払いですから、問い合わせ

わせは水道局の方になっていますが、今どのくらいの件数があるのか、もし分かれば情報提供していただきたいと思います。

また、ホームページを見る限り、家庭用の支払い猶予の話だと思うのですが、事業所など、業務用でそういったものがあるのでしょうか。あるいは、支払い猶予の中身です。結局、先送りということのようですが、場合によっては減免も用意をされているのかどうか、お聞かせ願えればと思います。

○事務局（中澤経営管理部長） 下水道使用料の支払い猶予に関するご質問です。

お話のとおり、水道局にご相談がいきまして、水道料金、下水道料金を合わせて支払い猶予ということになります。一部、下水道だけという方もいらっしゃるかもしれませんが、そのように進めております。

件数については手元に資料がございませんが、春以降、それなりの件数の支払い猶予のご相談があると水道局からは聞いております。家庭用、業務用それぞれでご相談があるところですが、これは、減免ということではなく、あくまで支払い猶予ということでご相談を受けさせていただいております。

○平本部長 他にございませんか。

○名本委員 11ページの先ほどご説明いただいた部分ですが、協働によるということにこだわっております。前の下水道ビジョン2030のレポートの中で、市民、企業、行政、協働による取組と明確に書いており、このビジョンを受ける中期プラン2025なので、それぞれという言葉ではなく、協働という言葉にこだわっていただきたいと思います。

また、前回もお願いしたのですが、内水ハザードマップという言葉が突然出てきますけど、今回、事例も抜けておりますし、この内容がどういうものかが分かりづらいので、説明を加えていただきたいと思います。

○平本部長 協働に関してですが、私も「戦略的協働の本質」という本を出しているのですね。市民と企業と行政のそれぞれ持っている資源やミッション、あるいは、目的が違うのです。それぞれの主体がそれぞれの価値観に基づき行動するとばらばらになってしまうので、そこに一定の方向性を与えたり、一定の価値を共有することで協働が促進されるというのが一般的な考え方なのです。

ですから、この「それぞれ」というのは、ばらばらということではなく、例えば、この場合ですと雨水流出抑制という大きな目的があり、そのためにスーパーマーケットの駐車場でやれることはこういうことです、それに対して行政が補助金を払いますよ、市民としてはこういうことができますよということを表しているのだと思うのです。

ただ、そういった研究者にとってはある種常識なことが一般の市民から見ると分かりづらいということがあるかもしれませんので、表現についてはご検討をいただければと思います。

2点目についてはご回答をいただければと思います。

○事務局（善徳事業推進部長） 検討させていただきます。

○平本部長 他にございませんか。

○河原委員 一市民からの素朴な疑問として聞いていただきたいことがあります。

今回のプランからは外れますけれども、今起きている地下鉄での浸水事故について、下水道の関わりはどのような感じなのでしょう。今回、復旧に時間がかかっていますので、費用もかさむだろうと想像しておりますが、教えてください。

○平本部長 今のご質問についてご回答をいただけますでしょうか。

○事務局（小野管路担当部長） 昨日から起きております地下鉄南北線北34条駅での浸水事故の件についてです。

まだ原因がよく分かっておりませんので、原因に関するコメントはしようがないのですが、水の様子を見ますと、どうやら下水ではなさそうだとするところまではたどり着いております。また、下水の関係では、排水した水を地上までポンプアップしまして、下水のマンホール内へ排水しているということで下水道としては貢献しております。

○平本部長 地下鉄北34条駅の話ということでした。

それでは、時間になりましたので、本日の議論は閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○平本部長 1時間を超過しましたが、活発なご議論をいただきまして、ありがとうございました。

本日の審議はこれで終了といたします。

進行を事務局にお返しいたします。

4. 閉 会

○事務局（藍原経営企画課長） ありがとうございます。

最後に、事務局から今後のスケジュールについてご連絡いたします。

（仮称）札幌市下水道事業中期経営プラン2025につきましては、本日頂戴したご意見を踏まえて取りまとめ、来年の2月から3月に令和3年第1回定例市議会への報告し、4月から5月にパブリックコメントを実施する予定です。その後、6月から7月の定例の審議会において委員の皆様へ報告をさせていただき、できるだけ早い時期に公表する予定です。

また、次回下水道部会についてですが、現時点で議題として予定しております令和元年度下水道事業会計決算の概要報告及び札幌市下水道事業中期経営プラン2020の進捗管理報告については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面会議にて行うことを予定しております。

こちらにつきましては、開催時期が近づいてまいりましたら改めて事務局からご連絡を差し上げたいと存じます。

以上をもちまして令和2年度札幌市営企業調査審議会第3回下水道部会を終了いたします。

す。

皆様、大変お疲れさまでした。

以 上